

視点
論点News, Trend Analysis
and Opinion

最

近、SDGs（持続可能な開発目標）というキーワードを目にする機会が多いかと思う。SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された目標で、30年までに持続可能でよりよい世界を目指すとしてされている。SDGsには貧困、教育、気候変動など17のテーマでそれぞれ目標が設定されており、日本でも各分野で積極的な取り組みが進められている。

多面的機能」という形で農業の有するさまざまな効果をアピールしてきたが、SDGsという概念が広く認知される中で、農業の意義、価値をより分かりやすく伝えられるようになった。一方で、農業のもたらす社会・環境への影響には負の側面もあることを忘れてはいけない。化学肥料や農薬による河川などの水質汚濁、農地開発による森林伐採、農薬使用による生物多様性への悪影響などがあるというのも事実である。さらに、農業による温室効果ガスの排出も忘れてはならない。植物を栽培する農業はCO₂を吸収しているイメージが強いが、実際には田畑での農産物の栽培や、畜産・酪農（特に牛のゲップに含まれるメタンの影響が大きい）における温室効果ガス排出も多い。

農業は食料生産以外にもさまざまな機能を有しており、SDGsとの親和性が高い。地方での食料生産を通して、「①貧困をなくそう」「②飢餓をゼロに」「③すべての人に健康と福祉を」などに貢献しており、最近のトレンドである農業の成長産業化は「⑧働きがいも、経済成長も」に関係している。

また、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）を活用したスマート農業の実用化・普及は「⑨産業と技術革新の基盤を作ろう」に、農村における小水力発電やソーラーシェアリング（太陽光パネルの下で弱い光でも育つ農作物を栽培する手法）やバイオマスといった再生可能エネルギーの活用は「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」に関係している（ちなみに、農林水産省のSDGs紹介ウェブサイトには、筆者が提唱した小型多機能型農業ロボットDONKEYの写真が紹介されている）。

ほかにも農業分野では女性活躍、水源涵養、気候変動対策といった取り組みがなされており、17の目標の多くに深く関係している産業であることが分かる。従来、農林水産省では「農業の

日本農業がSDGsの観点で取り組みを推進する際には、農業のプラス面を伸ばすとともに、マイナス面を抑え込むという視点が重要となる。農林水産省ではSDGsに配慮した次世代の農業の実現を目指し、「みどりの食料システム戦略」の策定を進めている。従来の各種計画よりも長い数十年スパンでの方向性を示している点が特徴だ。本戦略はまだ検討段階ではあるが、基本的な考え方として、2050年までのカーボンニュートラルの実現、有機農業の促進、生物多様性目標への貢献などが掲げられている。

具体的な方策として、農地や家畜からのメタン・NO₂発生量の抑制技術、農村での再生可能エネルギーの活用、気候変動適応のための新品種開発、肥料の国産化などが挙げられている。

2021年は「農業×SDGs」に注目



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
エキスパート

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。18年7月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。18年6月から農林漁業成長産業化支援機構社外取締役。

る。単に環境問題などへの対策として「義務的に」取り組むのではなく、日本の農業や他産業の長所を生かし、新たなチャンスを生み出そうという前向きな姿勢が感じ取れる。日本の自動車産業が、燃費規制をきっかけにハイブリッド車や電気自動車といった新たなエコカーを生み出したのと同様のチャンスとなり得る。

現時点で日本の農業は海外の農業大国と比べて競争力が低いとされているが、それはSDGsの観点での制約があまりない条件下での競争力の高低ではない。SDGsによりさまざまな縛りがより厳しくなってくれば、ゲームのルールが激変する。50年の世界において、日本の農業が世界的に確固たる地位を築くことも決して不可能ではないのである。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構代表取締役専務）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信社編集委員）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センター エクスパート）が交代で執筆します。

時代を読む。

山陰中央新報
政経懇話会

- 多彩な講師陣
- タイムリーなテーマで確かな情報提供
- 松江、米子、浜田、益田の4地区で開催

入会などの問い合わせは

山陰中央新報政経懇話会事務局
tel.0852 (32)3477